

ブラジルへようこそ!



ブラジルの高校生の制服

日本の高校生が制服を着ている姿を見て、感じたことがあります。男子はワイシャツにズボン、女子はワイシャツにスカートのような制服が多いですね。そういう制服がないブラジル出身の私からすれば、とてもおしゃれで素敵なドレスコードだと思います。

ブラジルでは、そもそも制服がなく、好きな格好で通っても良い高校があったり、揃いのTシャツを着たりする高校もあります。Tシャツとジャージのズボンが制服ということも多く、私が通った高校はそのケースでした。私の高校は、白いTシャツと紺色ジャージの長ズボンで、どちらにも校章が付いていることが特徴でした。日本の体操服と近いイメージだと思ってもらえればいいかと思います。

ジャージの上着と半ズボンを選ぶこともできました。これは、暑い季節に着る、寒い季節に着ない



というシーズンによる制服の決まりはなく、いつ着ても良いものでした。だから、制服だとはいうものの、みんなが同じ格好をするということはほとんどなく、コーディネートが自由なので、人によって制服の着方がさまざまでした。

自由に選べるものといえば、靴もその一つです。高校生だった頃の私は主にスニーカーを履いていましたが、サンダルを履いて通学することもありました。ビーチサンダルで通学する友達もいましたが、日本では見かけませんね。

高校の制服を例にとってみても、ブラジルは多様性があるといえるでしょうね。

【彦根市国際交流員 オカモト・ジュリア・ユリ】

彦根城博物館 ☎22-6100 FAX 22-6520

http://hikone-castle-museum.jp/

開館時間 8:30~17:00 (入館は16:30まで)

企画展 9月18日(金)~10月19日(月)
「彦根藩井伊家と能楽」
彦根藩井伊家と能楽の関わりについて紹介します。

特別展 10月23日(金)~11月23日(月・祝)
「幻の名窯 湖東焼 - 彦根藩窯の盛衰 -」
江戸時代、民間で始まり藩窯として栄えた彦根のやきもの、湖東焼。その全貌を初めて明らかにします。詳しくは5ページをご覧ください。



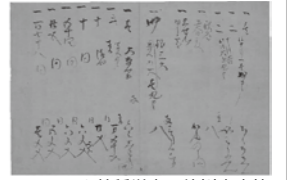
湖東焼 赤絵金彩芦雁図水指 鳴鳳絵付▶

■ 展示解説 10月24日(土) 14:00~14:40
解説: 当館学芸員 場所: 講堂
当日受付 (先着25人) ※無料 (観覧料は別途必要)

常設展示「ほんものとの出会い」では、譜代大名筆頭・井伊家に伝来した名宝を中心に80点あまりを展示しています。

11月26日(木)まで
薬種覚書 徳川家康筆

井伊家に伝来した家康の覚書(おぼえがき)。家康の没後、遺品として分け与えられた可能性があるもので、掛け軸に仕立てられて大切に伝えられてきました。



▲薬種覚書 徳川家康筆

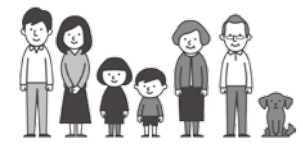
■ 10月19日(月)~22日(木)は展示替えのため一部休室します。

広報 ひこね



● 広報ひこねのご案内
▶ 彦根市では、点字および音声版広報ひこね(編集版)を発行しています。
☎ 障害福祉課 ☎27-9981 FAX 30-9231
▶ 外国語版(英語、中国語、ポルトガル語)の広報ひこね(編集版)を発行しています。
☎ 人権政策課 ☎30-6113 FAX 24-8577
▶ 廃棄する場合には古紙回収に出してください。
▶ 広報ひこねは52,700部作成し、1部当たりの単価は13円(1円未満切り捨て)です。原稿作成・編集などにかかる職員の人件費は含まれていません。

● 人口と世帯数(9月1日現在)
人口: 112,468人 (-45)
男性: 56,006人 (-25)
女性: 56,462人 (-20)
世帯数: 48,609世帯(+23)
※ ()内は前月比



ハロウィンジャンボ5億円

(1等3億円・前後賞各1億円合わせて)

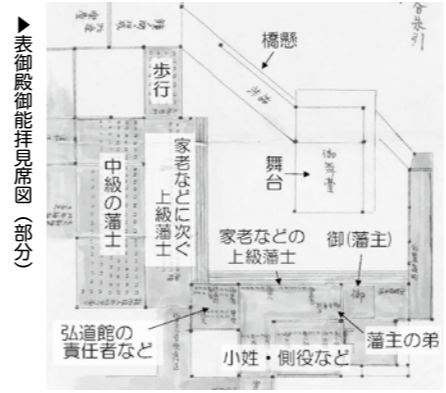
ハロウィンジャンボミニ1千万円

(1等1千万円)

この宝くじの収益金は市町村の明るく住みよいまちづくりに使われます。

各1枚 300円
9月23日(水) 2種類同時発売!
発売期間 9/23(水)~10/20(火)
公益財団法人滋賀県市町村振興協会

..... < 広告欄 >



表御殿御能拝見席図(部分)
弘道館の責任者など
小姓・側役など
藩主の弟
御(藩主)
家老などの上級藩士
家老などに次ぐ上級藩士
歩行
橋懸

写真の表御殿御能拝見席図は、企画展「彦根藩井伊家と能楽」で10月19日(月)まで、展示します(期間中無休)。
【彦根城博物館学芸員 茨木恵美】

彦根城博物館の中央に建つ能舞台は、寛政12年(1800)、井伊家11代直中の時に彦根城表御殿に建てられた由緒ある舞台です。明治時代のはじめ、表御殿は取り壊しをうけることになりましたが、能舞台だけは市内の井伊神社に移築されました。その後、沙々那美神社(現在の彦根市民会館の場所、護国神社と場所を移し、昭和62年(1987)、表御殿の復元を行う彦根城博物館の建設を機に、本来の場所に移築復元されました。

藩主が座るのは、舞台の正面に向かって右側の「御」と表記された場所です。藩主の右側と背後には屏風あるいは襖が立てられました。ここからは、舞台上だけでなく舞台左後方に伸びる橋懸もくまなく見ることが出来ます。藩主の左隣にはその弟、さらに左には家老などの上席の藩士が座り、後ろには藩主の身近に仕える小姓、側役などが並びました。舞台を左斜めから見る位置には、藩校の弘道館の責任者など。舞台左側面のいわゆる脇見所の前列には家老などに次ぐ上席の藩士、その後ろには中級の藩士達が座りました。さらに奥の舞台を斜め後ろから見る位置には、歩行という、戦時には馬に乗らず歩兵として参加する藩士達の席があります。このように、藩主の席から左へ向かって、家格や役職、身分が高い順に席が定められていたことが分かります。

お能拝見の席順 — 彦根城表御殿の場合 —

ときの玉手箱

博物館からのメッセージ

第289回